

旧上瀬谷通信施設地区の土地区画整理事業及び2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）の開催に向けた取組状況について

建築・都市整備・道路委員会
令和5年5月26日
都市整備局

1 土地区画整理事業について

(1) これまでの経緯

平成27年6月	上瀬谷通信施設の全域が返還
平成29年11月	地権者で構成される「旧上瀬谷通信施設まちづくり協議会（以下、協議会という）」が設立
平成30年5月	協議会と横浜市で取りまとめた「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画（素案）」を公表
平成30年11月	協議会から横浜市へ「市施行による事業の実施について」要望書を提出
平成30年12月	計画地全域で市施行による土地区画整理事業を実施することを前提に検討を進める旨を市会に報告
令和2年3月	「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」策定
令和4年4月	土地区画整理事業の区域を都市計画決定
令和4年10月	市施行による土地区画整理事業を事業計画決定
令和5年1月	米軍施設の撤去工事に着手

(2) 現在の主な取組と今後の予定

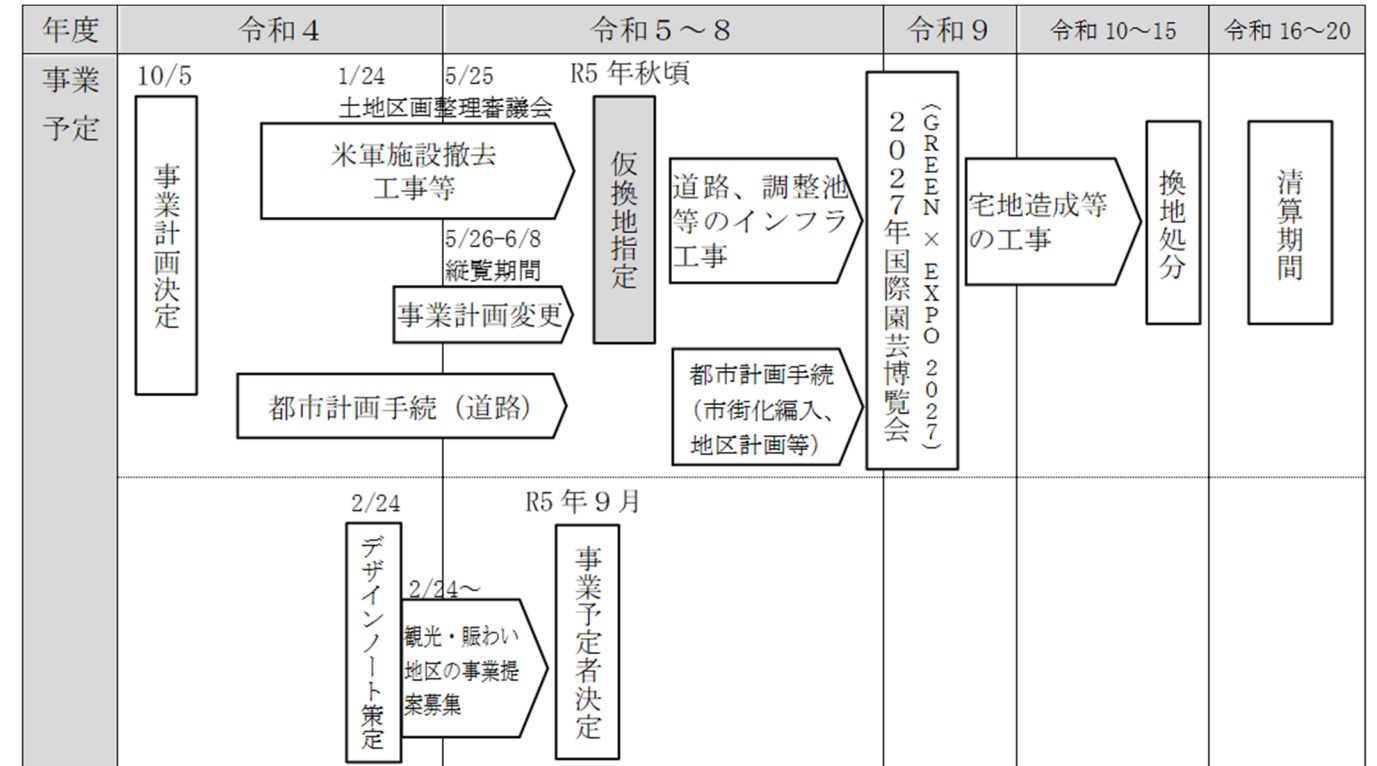
- ・環状4号線など道路の都市計画決定に向けて手続きを進めています。
- ・農道の配置計画等を反映させた事業計画の手続きに着手しました。
- ・令和5年秋の仮換地指定に向けて、地権者との調整を進めています。
- ・令和9年3月から開催される2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）に向けて必要なインフラ施設等の整備を進めます。

2 観光・賑わい地区の事業提案公募

- ・観光・賑わい地区では、テーマパークを核とした複合的な集客施設の立地を目指し、令和5年2月から事業提案の公募を開始しています。
- ・質の高い提案を引き出し、より良い土地利用を誘導するため、市民意見募集や審査委員会、市会のご意見等も踏まえ、令和5年2月に「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画デザインノート」を策定しました。
- ・7月31日まで提案を受け付け、9月に事業予定者を決定していく予定です。



3 スケジュール（土地区画整理事業）



4 周辺の交通基盤整備

- ・**周辺道路整備**
道路ネットワーク強化や、2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）開催時の輸送対策を踏まえ、八王子街道の拡幅や瀬谷地内線の整備に向けて、詳細設計、用地取得を進めており、今後、順次工事に着手します。
- ・**新たな交通**
将来の土地利用に見合う十分な輸送力を確保しながら、整備コストの抑制を図っていく視点で、新たな技術の活用も含め、幅広い検討を進め、観光・賑わい地区における事業予定者決定により、来街者の需要を見通したうえで、導入する輸送システムを検討していきます。
- ・**新たなインターチェンジ**
横浜町田インターチェンジの混雑緩和等に向け、検討に着手しており、周辺への影響などを踏まえながら、線形や構造などの検討を進めます。

5 2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）の開催に向けた取組状況について

(1) 2027年国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）の概要

ア 2027年国際園芸博覧会の位置づけ

最上位（A1クラス）の国際園芸博覧会
（AIPH（国際園芸家協会）の承認、BIE（博覧会国際事務局）の認定）

令和5年1月に、公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会（以下、博覧会協会）が策定した基本計画に基づき、会場計画や運営計画が具体化していきます。

イ 2027年国際園芸博覧会のねらい

- ・圧倒的な花と緑で多くの人々を魅了
- ・自然共生社会の実現に向けた新たな暮らしのモデルを提案
- ・経済社会システム全体を変革するグリーントランスフォーメーション（SDGs、脱炭素、生物多様性など）のショーケースとして、横浜から世界に力強くメッセージを発信

(2) 機運醸成に向けた取組

ア 具体的な取組

- 令和5年度を「機運醸成元年」と位置づけ、博覧会協会をはじめ関係者と連携しながら、機運醸成の様々な取組を進めていきます。
- ・市内公共施設、市営地下鉄及び私鉄、市内商店街、企業等へのPRポスター掲出や、主要イベントでのブース出展
 - ・地元企業や業界団体へのPRポスター掲出依頼・チラシの配布
 - ・九都県市首脳会議や、指定都市市長会議、自治体間連携の様々な機会を捉えた、GREEN×EXPO 2027のPR及び機運醸成の実施
 - ・市民向けのわかりやすいリーフレット等を作成し、様々な機会を捉えた効果的な広報PR活動の実施



PRポスター

イ 公式ロゴマークの決定及び正式略称「GREEN×EXPO 2027」を活用した機運醸成

令和5年2月8日（水）に最優秀賞作品が決定以降、博覧会の公式ロゴマークとして使用するための必要な手続き等を経て、4月28日（金）に、正式に決定されました。博覧会の理念やイメージを端的に表現し、より親しみや共感を得ていただくための正式略称「GREEN×EXPO 2027」と合わせて、博覧会協会と連携して、積極的に周知していきます。

(3) 輸送に関する検討状況

博覧会開催期間中の有料来場者を1,000万人以上と想定しており、博覧会協会と市が連携しながら、国や自治体、交通事業者や関係団体の協力のもと輸送アクセスについて検討しています。会場までの来場手段として、近隣の鉄道駅からのシャトルバス等を利用する「公共交通機関」や、観光ツアー等による「団体バス」、「自家用車」、「徒歩等」を想定しています。

ア 輸送アクセスの方法と交通機関別分担率の想定（全開催期間平均）

(ア) 公共交通機関（33%）

- ・会場周辺4駅からのシャトルバス輸送（※右ページ上部図参照）
- ・主要ターミナル駅等からの直行バス

(イ) 団体バス（27%）

- ・観光バス、修学旅行等

(ウ) 自家用車（34%）

- ・会場隣接駐車場
- ・P&R 駐車場

(エ) 徒歩等（6%）

- ・近隣住民を想定

イ 自家用車の混雑緩和策について

周辺の混雑緩和のため、会場隣接の駐車場に必要台数を確保するとともに、来場者へ公共交通機関の利用を促進しますが、開催期間中、来場者の集中が想定される多客日等においては、会場駐車場の他に会場外駐車場（横浜青葉 IC 付近など複数箇所を想定）を設け、そこからのシャトルバス輸送を検討します。なお、開催期間中の多客日は、10.5万人/日、10日程度を想定し検討していきます。

ウ 輸送基本計画の策定

博覧会協会と本市が連携しながら、輸送アクセスの基本的な方向性について、検討を進めており、年度内には輸送基本計画の策定を目指していきます。

(4) 公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会

ア 組織体制

国・地方自治体・民間企業と連携・協力し、体制を強化しながら、開催に向けた準備を加速して進めているところです。

イ ガバナンス

国際的大規模イベントとして、市民国民の信頼を得て業務を推進するため、ガバナンス機能の強化を図っています。

(ア) 実施した対応策

- ①契約規程の整備
 - ②監査課の設置
 - ③コンプライアンス委員会の設置
- といった、継続的なコンプライアンスの推進に必要な仕組み・体制を構築しました。

(イ) 更なるガバナンス機能の強化

- ・規範遵守、職務の公正性及び調達透明性を確保するための規程の整備
 - ・法令に基づいて開示が求められる情報以外についても、適宜、主体的かつ積極的に情報を公開
- 引き続き、国や横浜市、博覧会協会とで協議を行いながら、ガバナンス機能強化及び、その維持に向けた取組を行っていきます。

(5) 今後のスケジュール

年度	項目
R5 (2023)	認知度向上に向けた幅広い広報展開・企業等への積極的なプロモーション、会場計画や運営計画の具体化、国際参加者招請活動、輸送基本計画策定
R6 (2024) ～	展示出展参加者募集、会場整備、行催事参加者募集、チケットプロモーション、ボランティア募集
R8 (2026) ～ R9 (2027)	GREEN×EXPO 2027 開催 [令和9 (2027) 年3月19日～9月26日]

(公社)2027年国際園芸博覧会協会提供

